

認定NPO法人 たすけあい名古屋 20周年記念号

1997年（平成9年）8月30日



代表理事 西川 達夫

この日は、「福祉サービス協同組合 たすけあい名古屋」の設立総会の日です。発起人の方々が手分けし、15,000枚にも及ぶチラシをポスティングして始まりました。設立時には会員80名からのスタートとなり、これまでに「たすけあい名古屋」の活動に関わって頂いた方は延べ2,500名にも及びます。

今日から活動を開始します

- ① たすけあいを依頼する会員は事務局（892-0080）へお電話を下さい。
- ② この会のコーディネーターがお宅を訪問し、いつから、どんなサービスを希望されるのか打合せします。
- ③ その時に「たすけあいチケット」一冊70点7000円を購入して頂きます。
- ④ 初回のサービス活動に入るときには、サービス活動に協力する会員（担い手）とコーディネーターがいっしょに訪問してサービス内容の確認をします。
- ⑤ その日のサービス活動が終了した時に、「担い手」に「たすけあいチケット」をお渡し下さい。

この記事は、通信第3号平成9年8月30日号に掲載したサービス開始のお知らせです。地域に密着したお互い様の助け合い活動を展開し、「安心して暮らすことのできる地域づくり」を目的に活動を開始しました。

平成11年にNPO法人化、平成12年には介護保険事業への参入、その後通所サービス、障がい者支援、小規模多機能型施設と介護福祉の事業を順調に拡げてきました。また、NPO法人の資質向上に向け、なごや福祉ネット、あいち福祉ネット、移動ネットあいちといった、地域のNPO法人同士の相互研鑽の集まりの設立・運営にも力を注いできました。

「安心して暮らすことのできる地域づくり」まだまだ未完成です。団塊世代が後期高齢者になる2025年を間近に控えた今、支援を必要とされる人にやさしい地域づくりが必要です。地域づくりは「たすけあい名古屋」だけでできることではありません。地域の住人、医療機関、いきいき支援センター等々多くの方々との繋がり、協力関係があって初めて出来るものです。「たすけあい名古屋」は鳴子町に生まれ、緑区、天白区南部を中心に活動を行い、この地域の福祉団体として地域の皆様に認めていただけるように力を注いでいます。

鳴子地域（鳴子、戸笠、長根台学区）は名古屋市内でも有数の高齢化が進展した地域です。この地域を「安心して暮らせる地域」にするために「たすけあい名古屋」は、今後も地域の多くの方との協働を進めていきます。

次の10年に向け皆様方の変わらぬご支援・ご指導をお願い申し上げます。

「安心して暮らすことのできる地域社会を作る」



渡部氏(右)と山崎氏

たすけあい名古屋 前代表理事 渡部 勝

平成9年8月30日も大変暑い日でした。その年の4月27日地域住民に市民互助の組織を作るという呼びかけに応じた46名が、鳴子コミセンに集結しました。理念・目的・会の名称、組織・運営についての議論を重ね、15名の発起人を選び15,000枚のチラシを配布し8月30日の創立総会に300名が参加し80名の会員を得ました。

発足後の6カ月は世間の目は厳しく、ボランティア活動の依頼も少なく、設立時に賛同して集まった人も一人去り、二人去り苦難の半年でした。その間のわずかな活動を支えた妻をはじめ、数名の事務局員が「小さな信用を積み重ねる」「決して留守番電話にしない」「引き受けたことは誠意を持ち実行する」を実践したことが、今日の発展の基礎となりました。

「たすけあい名古屋」は、「ほどこしではない」「おしきせではない」「金もうけでない」という理念のもと、活動目的は「困ったときはお互いさまの気持ちで」「受け手と担い手との対等な関係を保ちながら、互いに支え合うことにより安心して暮らすことのできる地域社会を作る」ということです。

あれから20年、介護保険に参入し、時代の移り変わりもありますが、いつまでも「互いに支え合うことにより、安心して暮らすことのできる地域社会を作る」という当初からの目的を貫いて進んでいって頂きたいと思います。

(渡部氏は、地域への貢献と同時に、名古屋市・愛知県の福祉団体のまとめ役としてご尽力されました。)

「たすけあい名古屋」20周年を迎えて

NPO 法人いきいきネットゆりの会 理事長 山崎 カズミ

今日も暑い日が始まった。近くの道路は丁度この時刻になると、各事業所のデイサービスの車が行き交い、「たすけあい名古屋」の車もその中にある。そうか、あれから20年、あの日も暑い日だった。何はともあれ20周年おめでとうございます。

開設した当時は、どこからも電話はかかって来ない。そんなに困って居る人は居ないのか、と思ったものだ。野並の地下鉄や原駅の入り口に立ってチラシを配ったこともあった。

事務を終えて、各戸にチラシのポスティング。暗がりの階段につまずいたり、犬に吠えられたり、遠くまで行って自分の乗ってきた車の場所が分からなくなったこともしばしばあった。今は懐かしい思い出の一コマ。

私はボランティアはやり過ぎてはいけない、といつも自省している。ある日、ゴミを出して欲しいと電話があり、翌朝行ってみるとまさしくゴミ屋敷。ゴミを出しても出しても地面も畳も見えてこない。また、奥さんと離婚した幼稚園児と小学生の二人のこどもの父子家庭の夕食作り、そして御姑さんの介護のため、小学生二人を連れて東京から単身名古屋へ来たおヨメさんのことなど、本当に印象深い。

平成12年から介護保険に参入。ヘルパー派遣やデイサービスを開始した。病院のケースワーカー室や、居宅介護支援事業所をぶっつけ本番で訪問して営業をした。

現在、「たすけあい名古屋」は地域になくってはならない存在に成長してきた。今後更に、2回目の成人式を迎えられるよう期待している。

(山崎氏は、「たすけあい名古屋」の発起人のお一人で副代表・理事を務められました。)



山崎氏
(80棟事務所にて)

もう20年 まだ20年

名古屋市立大学客員教授

たすけあい名古屋 名誉会員 宮治 眞



5周年記念講演会にて
2001. 8. 26

もう20年か、まだ20年か。僕が創立に関わったのは56歳、各々の立場で歴史を語り継ぐことは大切なことです。一方で少子高齢化社会に代表される世相の移り変わりは、死の淵に立ち竦んだ元迷医としては、「たすけあい」意味を日々の生活のなかで実感します。各種事例検討、学生の講義、講演などをする度に、考え込みます。QOLでいうと

(【痛い／苦しい等】生物レベルとしての生命の質・【移動／食べる等】

個人レベルとしての生活の質・【旅行／趣味等】社会レベルとしての人生の質)です。

【 】内の具体例をみると、医療と介護が裏表の関係にあり、夫々3つの質は当然重なり合います。その延長線上に【死に方の質 (Quality Of Dying and Death)】があります。法が医療と看護と介護を分けるために、「たすけあい」重なりの意味が、娑婆を複雑にするのでしょう。医療と生活は表裏一体の重複です。

やはり言葉が他・多職種連携です。僕はこの「他」に医師を始め、医療職を超えた全ての職種が含まれると考えます。だから患者も利用者も他・多職種連携の一員で、趣味・旅行が含まれるのは当然です。人間は人と人の間の重複連携です。

「たすけあい名古屋」に「お互いさま」という理念があります。互助でしょう。僕も遠からずあの世に赴きます。家のなかではゴロゴロしているばかりで、外出時はたすけあい名古屋の「移動サービス」のお世話になっています。恩返しもできず心苦しい日々ですが、僕の終活動としては、このようなことを喧伝することが、もう20年か、まだ20年か、創設に関わった元迷医の責務かなと感じています。

「たすけあい名古屋」の今後のご活躍に期待し心より飛躍を祈念いたします。

(宮治氏は、「たすけあい名古屋」の発起人のお一人で・理事を務められました。)

たすけあい名古屋20周年おめでとございます

たすけあい名古屋 名誉会員 水谷 桂



水谷氏

67才で退職して家でブラブラしていた時、一枚のチラシを妻がもらってきました。これからは困っている人を助け合っていこうという理想が書いてありました。自分には時間がたっぷりあり、健康だからできそうだと思います。それから鳴子コミセンで近くスタートする介護保険の勉強会を始めました。会場費は各自その都度200円を払いました。

その後、前代表渡部さんの自宅を事務所にして8人位で発足しました。会費は月1万円、渡部さんは当時名城大学常務理事としての収入があり、

月10万円を寄付して頂き資金を積立て、新しく鳴子町へ事務所を借りる事が出来ました。その間会員を勧誘するためにチラシを作り、緑区、天白区内の各戸を廻ったり、名鉄鳴海駅、地下鉄野並駅前配ったりした事も思い出します。私は副代表として経理担当兼ドライバーをしていました。始めはチケットを使って送迎したりして会員同志の助け合いをしたものです。介護保険も本格的に機能するようになりヘルパー養成のため教室も開き、私も2級の資格を取りました。

時代はめまぐるしく変化を続けています。今後ますます高齢化が進み「たすけあい」の必要性が重要になって参りました。

「たすけあい名古屋」の今後のご活躍に期待し心より飛躍を祈念いたします。

(水谷氏は、「たすけあい名古屋」の発起人のお一人で副代表・理事を務められました。)

事業所紹介

たすけあい名古屋20年、デイサービス鳴子11年

デイサービス鳴子 通所介護



昨年10周年記念ができたこと、改めて皆様へ感謝申し上げます。山崎元副代表でスタートし、365日24時間対応に沿うべく体制を整え、大きく飛躍できたことは、皆様方の温かい眼差しと、それに応える女性スタッフの逃げない姿勢にあったと思います。

<発足当時>

岩本「週3日稼働。右も左もわからずの素人集団。」
岡戸「ご利用者一人だけの日も。一日をどう過ごそうか。」
近藤「ちっとも実らないポストイングに明け暮れた日々。」

<振り返れば>

村上「何ていい職場かな！」

林「痛みの解る職場、いつも笑って。」

原畑「ご利用者が多いのは、ここの雰囲気が良いからですよ。」

片桐「いいスタッフばかり最高、追いつくよう頑張ります。」

<10周年記念に感謝>

須原前施設長「ご利用者、スタッフあつてのデイ、デイ鳴子らしさをいつまでも。」

山崎元副代表「私の初夢、自社ビルでデイ利用者50人、スゴイでしょ、皆頑張ってる！」

<繋いで繋いで施設長6代目>

「子が親の背中をみるように、我々も又、ご利用者から学ばせて頂き、育てて来ました。」これからも気配りを持って、皆で頑張る！ 苦しい時も涙流して頑張る！

(デイサービス鳴子 管理者 竹本 精一郎)



10周年記念
音楽会にて

24時間365日切れ目のないサービス

鳴子のおひさま

小規模多機能型居宅介護施設



鳴子団地の北の端に位置し、建物の表と裏を公園の緑に恵まれた当施設も、開設以来6年になろうとしています。これまでいろいろ支えていただいた皆様へお礼申し上げます。

さて、当施設は「通い（デイサービス）」・「お泊り（ショートステイ）」と「訪問」の三つの機能が一体となり、24時間365日の切れ目のないサービスを提供しています。

その特徴は<馴染み>の建物、<馴染み>の職員という中で、お泊りでも大きなストレスがなくご利用いただいています。

また、「ご家族」と「主治医の先生」と「おひさま」とが三位一体となってご利用者の介護にあたらせていただいています。職員も常勤が7名、非常勤が10名となり、資格所有者もケアマネジャー4名、介護福祉士6名、ヘルパー4名（延べ人数）となりました。

これからもご利用者のご家族の支えとなれるよう、また地域のお役に立てるように歩んで参りたいと思います。よろしくお願いたします。

(鳴子のおひさま 管理者 坂倉 行人)

介護みどり 訪問介護



質の高い介護技術

「介護みどり」は「たすけあい名古屋」の介護保険事業部門で訪問介護を受け持っており、ホームヘルパー（訪問介護員）や担い手が高齢者介護に携わっております。

先輩諸氏が築きあげられた中で、「たすけあい名古屋」が介護保険施行前に自前でホームヘルパー2級研修制度を立ち上げられたことは、大きな財産になっています。現在もその第一期生が先頭に立って指導力を発揮していますし、“質の高い介護技術”は若手に引き継がれています。

この“質の高い介護技術”は、「介護みどり」だけでできたのではなく、ご利用者やそのご家族及び他の居宅支援事業所のケ

アマネジャーさんからの感謝の言葉や苦言が教訓となり、「礎」となっています。地域の人と人との関わりあいの中で育てていただいたといっても過言ではありません。「介護みどり」スタッフには、常にお陰様でという感謝の念が一杯です。今後ともご指導とご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。
(介護みどり 管理者 岡田 耕一)

ケアプラン鳴子 居宅介護支援



鳴子のいきいき相談室

小さな事務所から、居宅介護支援事業が始動しました。事務所は徐々に広く大きく、5人に1台のパソコンから、1人1台のITの時代へ。働きやすい環境が整えられ、増える書類にも対応できるようになりました。

その間、うばこやま事務所の開設、閉鎖があり、苦しい時代もありましたが、現在は4人のケアマネが集う「鳴子のいきいき相談室」となっております。

20年間のきずなを大切にして、地域の問題に取り組み、より良い地域づくりを目指します。住み慣れた地域で人生の終止符を打つことが可能であることを実証して下さったご利用者、スタッフの皆様にご心より感謝を申し上げ、今後も地域の要として、医療と介護の架け橋となれるように努力して参ります。
(ケアプラン鳴子 管理者 梅村 千春)

障がい者総合支援



障がい者支援 2004～2017

「支援費制度」が始まった頃、緑区には障害児者を対象とするヘルパー派遣事業所は数か所しかありませんでした。親やボランティアではなく公的な制度に裏打ちされたヘルパーさんに、余暇活動や送迎を託せるサービスは画期的なものでしたが、ニーズに応えられるだけの量が確保されていませんでした。そこで、「質を担保出来る事業所が欲しい」という親御さんたちの願いを受け止め、平成16年9月より「介護みどり」において障害児者へのヘルパー派遣事業がスタートしました。

その後、「支援費制度」は「障害者自立支援法」を経て「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）」となり、制度の充実が図られてきました。たすけあい名古屋の障がい者支援部門では、障害特性を理解した適切な支援にこだわりながら、その時々が必要とされるサービスを事業化し現在に至っています。

(障がい者支援部門 管理者 村田 裕子)

天白福祉会館



名古屋市指定管理者の「天白福祉会館」

たすけあい名古屋は、みどり福祉会館を平成20年～23年、天白福祉会館を24年～現在に至るまで指定管理者として運営して参りました。天白は、前任（23年度）の時は、15講座でご利用者数は3万人でしたが、現在では25講座で3万5千を超すご利用者に来館頂いています。その中で、ヨガ・太極拳・やさしい健康体操など体操系講座が9つ（同好会含む）もあり、16館の中トップクラスでしかも皆人気です。

また、28年度より認知症予防事業の「予防教室」と「予防リーダー養成講座」を開催し、その卒業生が地域のサロンなどで「コグニサイズ運動」や「回想法」を指導しています。

その他、各種イベント・コンサートの実施、警察署・消防署・保健所などによる講演会等を実施。福祉会館の最大イベント「演芸大会」（講座の練習成果発表会）を天白文化小劇場（350席・1日貸切）で一般のお客様も含み600名の参加で実施されます。

（天白福祉会館 館長 各務 芳春）

管 理



創立20年を迎えて

ここに20周を迎えられたことは、創立当初先輩諸氏が相当ご苦労され、それを維持拡大してきた職員、それが今日に到りました。20年の間に時代は大きく変遷しています。少子高齢化、人手不足に突入しています。

暮らし助け合いからスタートし、2000年に介護保険制度が始まりいち早く参入し、その後障がい者自立支援へと進み順調に推移してきたと思います。しかし、現実には、事業を維持するには小規模の事業所は相当厳しい状況にさらされています。

設立当初からの「移動サービス」と地域の人々の健康維持と親睦を目的とした「グラウンドゴルフ」、その後の「健康体操・卓球・スポーツ吹き矢教室」等々、担当職員の努力もあって順調に推移・定着し、地域に大きく貢献しています。これからも、経験豊富な介護技術を生かした介護事業のさらなるレベルアップを図りプロ集団としての役割、地域の健康維持と親睦を深めるボランティア活動の両輪がうまく噛み合うのが大切と考えます。いつまでも地域に貢献できる“たすけあい名古屋”として、次の30周年を目指し、全員一丸となって頑張らねばと思います。

（管理部門 管理者 高橋 増夫）

ドライバーさん



健康体操教室 卓球クラブ



たすけあい名古屋 20年の歩み

平成 年月	たすけあい名古屋 出来事	世の中 出来事	連続 TV 小説
9年 4月	呼びかけ集会、地域住民46名が参加	アジア通貨危機	あぐり
9年 8月	創立総会	ダイアナ妃事故死	
11年 7月	NPO 法人認可・登記		すずらん
12年 4月	介護保険法施行 (有)介護みどり参入	三宅島噴火全島避難	私の青空
14年 9月	(有)介護みどり併合	東海豪雨被害	さくら
16年 9月	フリースペースなるこ開設	スマトラ大地震	天花
17年 7月	児童デイなるこ・ホームヘルプ開設	福知山線脱線事故	ファイト
18年 1月	福祉有償運送開始	BSE 牛肉輸入禁止	純情きらり
18年10月	デイサービス鳴子開設	フセイン政権崩壊	芋たこなんきん
20年 4月	緑福祉会館わくわく通所サービス受託	中国製冷凍餃子事件	瞳
21年 7月	健康体操教室開設	オバマ大統領就任	つばさ
22年 4月	のん・たんと開設 11月 カフェ開設	「はやぶさ」帰還	ゲゲゲの女房
23年10月	鳴子のおひさま開設	東日本大震災	おひさま
24年 4月	名古屋市天白福祉会館 指定管理者受託	スカイツリー完成	梅ちゃん先生
25年 7月	認定 NPO 法人認証	鳥インフル流行	あまちゃん
26年10月	チャレンジド⇒かるむ 移転	STAP 細胞	花子とアン
27年 4月	介護保険法改訂、介護報酬切り下げ	イスラム国テロ多発	まれ
28年 6月	新しい総合事業開始	熊本地震、やまゆり園事件	とと姉ちゃん

鳴子団地の
移り変わり

本部事務所の
移り変わり



再開発前



再開発後



平成10年5月
鳴子町の事務所



平成15年6月
鳴子団地80棟の事務所



平成26年1月
第1カンテの
現在の事務所

たすけあい名古屋 アルバム



初代の頃の理事会



地域の人達とのもちつき大会



ボランティアさんと地域の花壇の花植え



27年度 天白福祉会館 演芸大会
天白福祉会館 演芸大会



スポーツ吹矢教室



事務所でミーティング中のヘルパーさん



ヘルパー研修風景

編集後記

「たすけあい名古屋」20周年。20年分の歴史を少ない字数、期間で原稿を寄せて頂いた皆様、またご協力頂いた皆様に深く感謝致します。原稿に共通していたのは「安心して暮らせる地域社会を作る」という想いでした。これからもその想いを伝えていきたいと思ひます。

ホームページをご覧ください

たすけあい名古屋 検索



特定非営利活動法人(認定NPO法人) たすけあい名古屋

代表理事 西川 達夫

〒458-0041 名古屋市緑区鳴子町四丁目13番地 愛知県住宅供給公社鳴子第1住宅

TEL 052-899-0833 FAX 052-899-0800

Eメールアドレス: info@tasukeainagoya.com